

ごみつてだれのもの 少し本気で考えたい

皆さんすでにご存じのとおり、市では今年の六月から、通町、西大館町、花岡本郷上の三つの町内を分別収集のモデル町内に指定し、分別の徹底化ということを試みてきました。

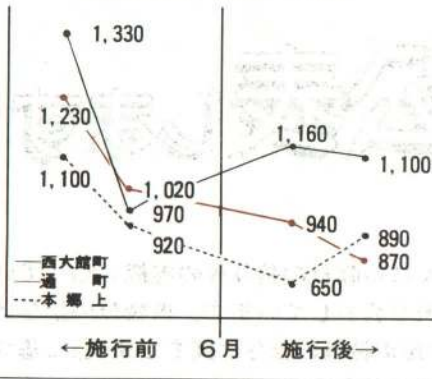
三町内の各世帯には、燃やせるごみ、燃やせないごみそれぞれ専用のごみ袋を配布しています。ごみを出す際はその袋へしっかりと分別して入れてもらいます。袋に名前を書いてもらおうようにしています。袋はどちらも中身が見えるもので、決められたごみ以外のものが入っていれば収集の際にすぐ分かります。もし

違うものが混じっていた場合は、『このごみは収集日が変わりますので収集できません』というシールをはって置いてきています。こうすることで、このごみはなぜ収集されなかったのかを再認識してもらえます。

大館市の分別収集は昭和四十二年に始まりました。それから二十五年、今では燃やせる、燃やせないに分けることはほとんどの皆さんにご承知いただいています。しかし、それでもまだ互いに混入されるケースが多いのが実情です。ごみの量も昔と比べてずっと増えてきました。

モデル地区のごみの推移

(燃やせるごみ) (kg)



きれいです
一時預かり所

山口 ヤスエさん (通町)

ごみの一時預り所が整頓されて、すっきりしました。分別については、慣れるとそんなに手間が掛かりません。ただ家族が少ないので、ごみ袋が大き過ぎます。扱いやすく、こまめに出せるよう、小さい袋もほしいですね。

モデル町内は 減量に成功

左上のグラフは、三つのモデル町内での燃やせるごみの量の推移を示しています。

いずれの町内も、試行前最初の計量時と比較して、出すごみの量は減少しています。割合でみると二〇〜三〇%の減です。

心がけてます 「物を大切に」



高坂 マツさん (本郷上)

ごみ袋の指定はいいことだと思いますよ。袋自体は大きくてうちでは重宝しています。ほかの袋より丈夫です。それに、使えるものはなるべく捨てることを心掛けるようになりましたから、ごみの量も減りました。

ごみ袋指定

全市へ拡大

減少した理由として考えられることとしては、まずモデル町内になったことでごみに対する関心が一気に高まったというのがあるでしょう。そして、町内ぐるみでごみの出し方に注意が払われたということだと思います。もともと各家庭である程度は分別していたのですから、何もこれまでと変わらないという家もあれば、あつこれはこつちなのかと改めて気づいた家もあったはず。ほとんどが正しく出すようになったでしょう。

また、もう一つ注目したいのは、名前を記入すること。仮に自分がそうすることになったら、袋は中が見えるのですから、きつと十分注意して分別するはず。私は絶対大丈夫なように分けてますというサインともいえるの

資源ごみの再利用、リサイクル、生ごみの自家処理、これらはまず完全な分別から始めなければなりません。

現在市では、モデル町内での試行結果を基に、指定ごみ袋による分別収集を市全域で実施し、この指定ごみ袋は市内の商店等で購入してもらおうという、いわゆるごみ収集の有料制の導入を検討しています。

ごみは出しさえすれば無料で処理されるものという考えは、改めるべき時期ではないでしょうか。現に、分別せずに出されたごみのために年間一億円もの予算が充てられています。税金が無駄に使われているのです。

ごみ問題というのは、ただそれのみで考えるわけにはいきません。消費のこと、環境のこと、健康のこと、さまざまなことを一体として見つめ、見直さなければなりません。有料化・分別収集はその第一歩です。

きれいな街・大館が
すきです